

府中町ふるさと歴史散策

〔第49回〕

文化財としての地名⑮

昭和初期の町内会名⑩

大崎

昭和初期の頃の字名は古い歴史に基づいた所が多く、現在も生き続けている。今回は「大崎」について考えていくこととする。

〔10〕字 大崎

「この地域は広島湾の海岸線であった頃、荒波が寄せ来る中に、突き出た犬岬であったといわれている。後に「大崎」と地名が変わったのではなからうか。」（菅原守編『芸州府中社誌』から、筆者が口語訳したもの）

また、『芸州府中町史 第1巻』では「字大崎」について、「鎌倉期から藩政期を経て、現在の大崎町内会名として生き続けているものである。背後に出張城山をひかえ、前方（西方）は沖地区になって大道が南北を通っている」と記されている。「字大崎」は現在の住居表示では宮の町三丁目と宮の町一丁目の東部の地域で、府中町の中央部である。

「字大崎」にある多家神社（写真①）は延喜式神祇（927年）の神名帖に安芸国多家（おのおのみ）神社一座と記載されている。多



写真① 多家神社



写真② 水害記念碑

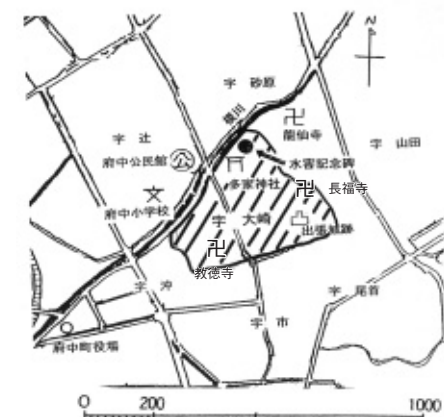


写真③ 出張城跡

家神社は松崎八幡宮と総社を合祀して明治7年（1874年）に創建された校倉造りの宝殿は、広島県指定の重要文化財である。境内には出征した軍人の記念碑や、大正15年（1926年）9月に起こった大水害の記念碑（写真②）がある。（水害記念碑についてはふるさと歴史散歩（第36回）平成18年11月号広報ふちゅうに記載しています。）

多家神社の森は「誰曾廻森」と呼ばれている。その名は神武天皇東征の伝説による。「神武天皇東征の際、水を求められてこの地に船を着けられた。森の中にいた村人へ「そはたれぞ」と問われ、その村人の導きで水を得られた。そして、この地はすこぶる景勝の地と賞せられた。その時以来、この地は「誰曾廻森」と呼ばれるようになった。」と記されている。（菅原守編『芸州府中社誌』から）

多家神社の南に出張城跡の丘（写真③）海拔31mがある。出張城は応永年間（1394年～1428年）、下総国から移ってきた、瀬戸内海



地図「字大崎」(斜線の部分)とその周辺図

熊野 俊浩

警固衆の白井氏の居城として伝えられている。中世の史料では「府城」、「国府城」、「芸府城」などと記されており、「出張城」の名前は近世の字名からとったものと思われる。

多家神社の東に長福寺がある。本尊は阿彌陀如来で、万寿2年（1255年）田所氏の始祖資遠が開基したと伝えられ、田所氏の菩提寺である。戦国時代には出張城主白井氏の菩提寺ともなる。天明7年（1817年）に国泰寺主智外和尚の再建により曹洞宗となる。

なお、「字大崎」にみられる小字名は南濱、湊、宮ノ脇、寺山などがある。

府中町文化財保護審議会委員

人の動き



11月1日現在(前月比)

人口	51,975(+12)
男	25,601(+11)
女	26,374(+1)
世帯	21,494(+9)
面積	10.45km ²

町の花
つばき

町の木
くすのき

お悔やみ

〈敬称略〉

氏名(年齢)	住所	死亡日
谷口 忠彦(66)	瀬戸ハイム三丁目	10/5
中久保 覺(77)	みくまり二丁目	10/7
長尾 ナヲ(95)	本町一丁目	10/9
南部キヨコ(78)	八幡一丁目	10/13
田中 勝子(71)	瀬戸ハイム三丁目	10/12
峯野 照子(79)	清水ヶ丘	10/21
藤原ヤスコ(96)	石井城一丁目	10/21
濱中 ヒメ(90)	青崎東	10/10
宮崎ヤエ子(96)	みくまり三丁目	10/22
田中 宣行(84)	青崎東	10/28

※この「お悔やみ」欄には、「町広報紙掲載申出書」の提出があった場合のみ掲載しています。

問い合わせ

地域振興課広報公聴担当

286-3127

「広報ふちゅう」等のカセットテープ版・点字版のご案内

「広報ふちゅう」「議会だより」「ふれあい府中（社協だより）」のカセットテープ版・点字版を、希望者に無料で貸し出し・提供しています。

あなたのまわりの視覚に障害のある方に是非お知らせください。

申し込み・問い合わせ 府中町社会福祉協議会 ☎285-7278 FAX287-3467

